

第3回乙訓圏域障がい者自立支援協議会相談支援部会会議録

日 時 平成26年10月2日(木)午前10時~12時

場 所 乙訓保健所 講堂

出席者 相談支援部会委員 18人

乙訓障がい者基幹相談支援センター・キャンパス・アンサンブル・乙訓ひまわり園・向日市社協障がい者地域生活支援センター・NPO法人こらぼねっと京都・乙訓福祉会・乙訓ポニーの学校(2)・大山崎町社会福祉協議会・乙訓若竹苑・京都府立向日が丘支援学校・乙訓やよい会・乙訓の障害者福祉を進める連絡会(2)・乙訓保健所福祉室・向日市障がい者支援課・大山崎町福祉課

運営委員 なし 事務局 1人

欠席 アイリス・長岡京市障がい福祉課

配付資料 次第・相談支援研修についてのアンケート・9月2日(火)作業部会で話し合ったことと、アンケート案・「サービス等利用計画」「障がい児支援利用計画」説明会アンケート・計画相談説明資料

会議の公開・非公開 公開 傍聴 1人

資料確認

1. 開会

(事務局)

・本日は部会長の伊藤委員が体調が悪く欠席である。長岡京市の井出委員、アイリスの松田委員、そして大山崎社協の白木委員は急な用務の為ということで4名の方が欠席と聞いている。部会長が急にお休みということになり副部会長の方で今日は進めていただくなるかと思う。ご協力のほど、よろしくお願ひします。

(伊藤副部会長)

・おはようございます。今日は前回、研修について、より実りあるものにしようということで、まずはアンケートをとって、その中のところで焦点を当ててもらいながら、研修を企画してもらったらどうかということで、そのアンケートの為のアンケートを各事業所に送らせていただいて、その結果、どういう風にアンケートをやっていくかということが一つと、もう一つはお手元の資料の中に8ページから計画相談のこの間実施してきた説明会に参加された方のアンケートをどこかで利用できれば嬉しいということで、その計画相談説明会の資料も自立支援協議会のホームページの方にアップさせてもらうことになった。ただ、あれだけではわかりにくいので、その時に説明していたようなことも横に添えてアップする資料の案を出させていただいているので、その辺も検討していただいた上で、まずはこの二つから進めていきたいと思う。最初に8ページのところからの自立支援協議会のホームページに載せる計画相談説明会についてのこれまでの結果アンケートと特にパワーポイントの説明資料を時間をおくので見ていただきたいと思う。

(榎並副部会長)

・今日の部会の前に部会員の方にはメール配信をさせていただいているので、もう、それぞれご確認をいただいていると思うのでご意見をいただければと思う。

(事務局)

・メール配信できていない。部会長・副部会長に確認のところが手間取り最後間に合わなかった。作業部会の方には送っている。

(伊藤副部会長)

・今から7分間ほど時間をお渡しするので一読していただき、その上でご意見等をいただきたいと思う。意見を言うつもりで一読していただきたい。ホームページには次々とページが出てくる形でアップする予定である。

(事務局)

・ホームページにアップする形はPDFの形になり、アンケート結果の部分(4ページ分)が連続した4ページ分でPDFでアップされて、次に説明会資料の部分が5ページ分続けた形でPDFでアップされる。自立支援協議会の計画相

談説明会の資料という部分でクリックしていただくと、その資料が出てくる形の予定である。

(伊藤副部会長)

・そろそろ良いだろうか。読んでいただいて、これを自立支援協議会のホームページにアップして、どなたかが計画相談とは何かと思った時にご覧になられるというようなところを考えながら、ご意見をいただければと思う。

(河合委員)

・昨日、メールで意見を送らせていただいているのだが、実施の計画相談説明会の時は横に付けてくれている説明を話し言葉で説明して下さっていたので凄くわかりやすくて良かった。それを文字にして横に付けると、今度は書き言葉になるので、これを目で追っていくと、ちょっとわかりづらくなってしまう。話し言葉の時には間合いをおいたり、抑揚をつけたり等で凄くわかりやすかったところが、目で追って読んでいくとわかりにくくなってしまう。専門家の方はわかると思うのだが、もうちょっと書き言葉に直したり等、例えば2枚目の『「サービス等利用計画』は障がい者総合支援法に基づくサービス、』と読点になっているが、そのショートステイ等はサービスの説明なので、例えば、これを括弧の中に入れて示す等そういう何か変えていくことをやった方がわかりやすいと思う。その検証がいるように思う。このまま即アップしてしまうと読んだ人が返って理解が難しくなるように思う。人々、前回の部会ではまずスピード感を持ってこの資料をアップして、その前にあるアンケートに答えて下さったものに対するコメントも一緒に最初にアップして、このパワーポイントの資料に説明を付けたものは、その後でゆっくりというか今日の部会で検討した後に入れ替えるということだったので、私もどういう風に優しく変えたら良いか考えられていないけれど、もうちょっとこれは時間がかかるように思う。もし、今アップするしたらスライドのところだけをアンケートのコメントと一緒に載せるという段取りにした方が良いという意見を出させていただいた。あと、アンケートのところの見出しを書いておかないといけないよう思う。アンケートの質問に対するコメントも載っているものであることが見出しを見てわかるようになっていないと資料というだけではコメントまで載っているとはわからないので、ホームページに上げる形のところはわかりやすい方が良いと思う。

(事務局)

・説明会のパワーポイントの資料そのものは前回の部会の報告のところに25年度の資料・26年度の資料についてはあげさせてもらっている。説明会資料ということで特段、枠を作つてということではないが、相談支援部会の第1回の記録のところにパワーポイント資料のところをクリックしていただくと出てくるという形ではアップさせてもらっている。

(河合委員)

・全然、知らなかった。結局、探しようがないというか、部会長が想定されていたのは新着情報のところに「〇月〇日に実施されました。」という後に「説明会は終了しました。」という掲示があつて、そこで「資料があります。」というところをクリックしたらそこへ飛ぶという形にしておかないと会議録のところに入っていたのでは見てもわからない。私もいつ載るのかと思い何回も見てきたが、全然お聞きするまでわからなかつた。

(伊藤副部会長)

・その辺は改善できるだろうか。お時間をとつていただいて、まずは新着情報で「計画相談説明会は終わりました。」として、例えばだが、そこで飛ぶようにして、終わった結果「こういう資料を使いました。」というところに飛ばすというようなことで良いだろうか。

(河合委員)

・「終わりました。」というところに「資料があります。」と載せておいて、そこをクリックしたら飛ぶようにした方が良いように思う。

(伊藤副部会長)

・自立支援協議会のホームページは皆さんどの程度見ておられるのだろうか。大変な作業の中で出て下さつていて、部会も重なつて出て下さっている方もいて大変だとは思うが、時々見ながら気がついたことは、その都度、事務局の方にお伝えしながら、時々でも見ていただけたらと思う。

(河合委員)

- ・このコメントの載っている部分はまだあげていないということだろうか。

(事務局)

- ・自立支援協議会のホームページを開けたら「計画相談説明会」というものが出るようにして、そこで計画相談説明会の資料については直ぐに上げさせていただくようにしたいと思う。今日ここで検討していただいている、このパワーポイントの右側に説明が付いたものについては皆さん方が「これで良い」という了承をされた時点でホームページの方にあげさせていただくようにする。できるだけわかりやすくというのはするように努力させていただこうと思うのでよろしくお願いします。見ていただいた上で、またご意見をいただいたら修正等もさせていただくので、如何だろうか。

(伊藤副部会長)

- ・それはそれでお願いしながら、アンケートの方はゆっくり読んでいただく時間はなかったのだが、その前にもう少し皆さんのご意見をお聞きしたいと思う。これが難しいのか、どうなのか。行政関係の方はすっと読めるのか、それとも、なかなか読みづらいのか。その辺は如何だろうか。

(榎並副部会長)

- ・表現以外のところでもご意見があれば出していただければと思う。

(上田委員)

- ・スライド以外の資料でいう9・10・11ページも載せるのだろうか。

(伊藤副部会長)

- ・そうである。アンケートのところも載せるのだが、先に説明会資料の説明書きについての意見をお願いしたので、また後程、アンケートについてのご意見はお聞かせいただきたいと思っている。説明書きの資料を読んで率直なご意見を聞かせていただきたいと思う。

(吉川委員)

- ・先程、河合委員もおっしゃったようにPDFの資料だけで良いのかなと思う。PDFの資料の方がわかりやすいといふか、詳しく書いてくれているのだが、市民の方が見られた時にどうなのだろうというのがあり、ちょっとわかりにくくないと思う。資料だけの方がわかりにくい部分はあっても、事務局等に問い合わせてもらう方が良いように思う。いっぱい書いてあると、どちらを主に見れば良いかがわからない等があるかと思うので、丁寧だがわかりにくさがあるので迷ってしまう。解釈をしにくい部分があるように思う。

(伊藤副部会長)

- ・他にご意見は如何だろうか。

(ポニーの学校・小松委員)

- ・先程、河合委員がおっしゃったみたいに、ここに載っていない先程のサービスの中身（ショートステイや通所事業所、ホームヘルプ等）や用語の説明が入っていた方がわかりやすいように思った。それとか、付け足して説明して下さったこと。

(伊藤副部会長)

- ・説明会の時にだろうか。

(ポニーの学校・小松委員)

- ・説明会の時にこの左に載っている以外のことを説明してわかりやすいように話したこともあるかと思うので、そういうのだけを入れる、追加するみたいにしてみると良いかと思った。ちょっと具体的なことは言えないのだが。

(伊藤副部会長)

- ・他にご感想はあるだろうか。

(高畠委員)

- ・文章の意味は全部わかったが、たぶん重複する部分があるのだろうなというのは同じ意見である。ただ、先程言われたサービスの中身でショートステイや訪問ヘルプケア、ケアホーム、グループホーム等、対象はこんなものがあるとい

うのはピックアップして、サービスの説明も含めて簡単な必要なところだけのポイントがあれば良いように思った。ピックアップで丁寧に繰り返してもらっても良いと思う。作る人はこういう人である、更に厚生労働省が主催するというきっちとしたものが入っているから、こういう説明は必要な部分だと思う。それと、サービス計画のところはサービスの種類と何故計画が必要なのかというところは丁寧だが入っていた方が良いように思う。要は福祉法の土台となっていける日本国憲法の中でという原則論という問題は意外と丁寧に説明会でしてくれていたので、この中身はこういう形で入れた方が良いのではないかと思い、そのまま入れた方が良いという気がした。全部は読み込めていないのだが、その辺でピックアップして、先程、小松委員が言われたみたいにサービスの説明と用語の説明のところで基本的なところを押さえて入っていれば、言っておられたPDFのファイルとそれにプラス今の説明で良いような気がする。同感である。

(伊藤副部会長)

- ・吉川委員、もう一度言つていただけるだろうか。

(吉川委員)

・私は資料だけでも良くて、勿論、サービスの種類や内容はどこかに載せた方が良いのか、または違う方が良いのかとは思うのだが、基本の原則論も大事である。市民の方で初めて言葉にする方も多い中で、なかなかホームページにどれぐらいの内容とどれぐらいのものを載せるかということなので、あまりたくさん文字があると「面倒くさい」ということになってポイントのところだけ、太文字のところだけ読むことが多いように思う。私個人はサービスの種類等の説明も良いのだがPDFの資料とあとは議事録でアップでされているなら私も見ていて申し訳ないのだがその辺りで良いように思う。言葉を文章化することはとても難しい。聞きなれない、耳にしない言葉は結構多いと思うので文章等もちろん計画相談の説明や初回の契約の時等もそうだが、我々は業務でやっているのだが、家族さんや本人さんはその人に合った説明をさせてもらうので、基本のところがアップされていれば良いように思う。それプラスちょっと必要な補足事項や説明事項があった方が良いような気がする。

(伊藤副部会長)

・元々はどこかに出前で説明してくれるところがあれば良いなあ。一方で折角作ったものを自立支援協議会として有意義に使えれば良いなあ。でも、使うにしてもパワーポイントの画面だけではわかりにくいんだろうというようなこれまでの経過があつて、この間説明会を行った時の大本になったものがあるので、それを横に付けていくかということになり付けてみたところ、今の感想でいうと案外わかりにくかったということになるだろうか。

(上田委員)

・両方を載せてはいけないのだろうか。確かにこれだけでは字がごちゃごちゃとあって読む気がなくなるというか、確かに取つきにくい印象を与えるように思う。ただ、一方でこの場面だけ見返して、スライドだけを見返して、ここはどんな説明だったか見返すには凄く良いと思うので、両方を載せたら良いと思う。そのスライドだけを載せておいて、説明会当日に説明させてもらった内容を補足したものをまた一つ載せておけば、見たい方を見られるようにすれば良いかと思う。

(河合委員)

- ・説明付のものと資料のみのものと二つ並べておいて、どちらでも見られるようにしておけば良い。

(上田委員)

- ・折角、作ってくれたのでじっくり読むぶんには見やすいと思うので、見たい人が見たい方を見れば良いかと思う。

(伊藤副部会長)

・それでは、二つ載せていただく方向で、ただ、今おっしゃって下ったみたいに用語の説明等もう少し検討を加えるところの部分については、また部会長・副部会長・事務局で相談させていただいて案という形で皆さんに配信させていただくということで良いだろうか。

(榎並副部会長)

- ・取り急ぎ、その資料だけを早急に事務局の方でしていただくようにしたいと思う。

(河合委員)

- ・後日、そういうものも載りますみたいなことを付けておいてもらえば、またしばらくしたら見てみようと思われると思う。

(伊藤副部会長)

- ・それと同時に載せる、実際、計画相談をやった後のアンケートと質疑の中でのコメント。参加者の方から出されたご意見に対してコメントとして伝えた部分というのが遡るが8ページから11ページに載せている。アップするとして、何か気になるところはあるだろうか。まず、表題がいるということだろうか。

(河合委員)

- ・前回に皆さん内容を確認されていると思う。

(榎並副部会長)

- ・河合委員からのメールで一部抜けていたところがあったので、それは修正して載せてある。

(伊藤副部会長)

- ・改めて何かあるだろうか。

(上田委員)

- ・細々したことだが、良いだろうか。9ページの1人目の向日市の方に対するコメントで「違い」のところに「違ひ」と「i」が入っている。2人目の長岡京市の方に対するコメントのところでは、2行目、「希望されば」となっているが、「希望されれば」になると思う。4人目の向日市の方のところでは、2行目、「放課後等デイサービス」の「等」が抜けている。その方に対するコメントで、5行目、「地域生活支援センター」とあるが「地域活動支援センター」である。次に6行目、「訓練給付」は行の頭にきた方が見た目が良いように思う。

(伊藤副部会長)

- ・これは「訓練等給付」ではないだろうか。

(上田委員)

- ・「訓練等給付」である。同じく「等」が抜けているのが同じく2行目の「重度障害者包括支援」のところで「等」が抜けている。4行目、地域生活支援事業のところの「コミュニケーション支援」が今は「意思疎通支援」に変わっている。あと全体として、一番左側に「N0.」とあるのだが数字が入っていない。イメージだが、向日市の方の家族のコメントとそれに対する回答というところで、そこを2つ縦にセルを引つけた形にしてしまって1、2、という風にとつていけば良いのかと思う。それに対して下のところのコメント欄は右の2つのセルをくっつけて「コメント」としておけば良いかと思う。あと10ページだが、一番下の長岡京市の方が「ありがとうございました。」となっているので「ございました。」とする。その方の会場だが細かいようだが「大山崎町中央公民館」となっているので「大山崎町立中央公民館」としていただければ有り難い。同じく10ページの3人目の長岡京市の方に対するコメントの1行目だが「必ず必要」の「必ず」というのが日本語的に必要と重なってくるとおかしい。次に11ページ、上から3人目の向日市の方のコメントだが読点があまりにもなくて読みにくいので適当なところで読点を打ってもらえばと思う。あと4人目の長岡京市の方で「サービス等利用計画」の「等」が抜けている。一番下の行「申し訳け」の「け」がいらない。気付いたところでそんなところである。

(伊藤副部会長)

- ・セルについては作って下さった方がわかって下さったので、それでやってみていただこうと思う。他に何かあるだろうか。それでは、終了後のアンケートについては、直ぐにでもいけるだろうか。

(ポニーの学校・小松委員)

- ・アンケートの集計の数字というのはどこかに出ていたのだろうか。

(伊藤副部会長)

- ・右端に出ている。

(ポニーの学校・小松委員)

- ・市町ではなくて全部の数のことである。合計が出ていないように思う。

(吉川委員)

- ・9番の会場別回答状況のところになるのではないだろうか。

(伊藤副部会長)

- ・参加者数と回答数というところで3回の合計が一番下に出ている。参加者数75で回答数56と出ている。参考までに前年度の数も出ている。上の方にある方がわかりやすいだろうか。

(ポニーの学校・小松委員)

- ・これを見た時にどういう割合になるか計算してみようと思ったのだが見つけられなかった。

(伊藤副部会長)

- ・9番の「今日の説明会のこと、他にお気づきのことがあれば・・・」に対して6人の回答があった。その下の「会場別回答状況」というのは、これはこの枠で一番上にいくのかと思う。上に全体の数字をまず載せておく方がわかりやすいという提案だろうか。

(ポニーの学校・小松委員)

- ・その方が良いかと思う。

(伊藤副部会長)

- ・それは簡単に操作できるだろうか。

(榎並副部会長)

- ・できるかと思う。長岡京市だけを一番上に上げるのだろうか。

(伊藤副部会長)

- ・これを、「会場別回答状況」というこの5行をこのまま上に上げる。

(榎並副部会長)

- ・9番を一番上に上げるということだろうか。

(河合委員)

- ・9番ではない。9番の下である。

(伊藤副会長)

- ・一番下5行を上に上げる。そして、アンケートの問い合わせの1番は「お住まいの地域はどこですか?」となり、そこからアンケートが始まる形になり、最後が「今日の説明会のこと、他にお気づきのことが・・・」のところで6人の回答があったというのが一番最後のアンケートの回答という読み方の方がわかりやすいということかと思う。「説明会が終わりました。」というところで終わった結果のところを載せてもらうということで良いだろうか。他に何かこの件についてあるだろうか。

(上田委員)

- ・表題ところで「サービス等利用計画」「障がい者支援利用計画」となっているが「障がい児支援利用計画」である。あと、細かいことだが表題のすぐ下に四角囲みで9とあるが、回答の総数ということだが、それを書いておいた方が良いかと思う。何の9かと思うのではないだろうか。

(伊藤副部会長)

- ・例えば、9ページの7番で括弧の中に9とあるのだが、これがそれについての回答数なのだが、その9の前に例えば「回答数」等を入れれば尚わかりやすいということかと思う。それと1番から9番までが連動していくということである。その様に入れていただいて皆で見ると良いものになるかと思う。他に何かお気づきになったことはあるだろうか。ここはこれでお願いしたいと思う。よろしくお願ひします。

2. 研修会の実施

(伊藤副部会長)

- ・各事業所に送ったアンケートの返ってきた結果と一緒にいただいたご意見等が資料として一緒に載っている。研修は

個別支援計画、各サービス提供事業所で作成しているであろう個別支援計画と相談の方で作成している計画相談がどう連動していくべきか、どう連動し合ってその人の支援がより良いものになるのかというところを焦点に当てながら、乙訓圏域の乙障協（乙訓障害者支援事業所連絡協議会）とも連絡を取りながら進めていこうということだった。それを進めるに当たって、より切実な願いに沿ったような中身で研修をやってもらえたからどうかということで、アンケートをやりましょうということだった。

（複並副部会長）

- ・そのアンケートをする為のアンケートを先日送らせてもらい回答をいただいた。

（伊藤副部会長）

・その結果返しが今日お配りしている横に印刷されている資料である。アンケートの項目は上の5項目だった。答えていただきやすいようなやり方で、直ぐにやろうということだったので、まず相談支援事業所の方に対しては「利用計画を送付していますか?」、「個別支援計画をもらっていますか?」という表題で送らせていただき、それについてのお答えが以下にずっと書いている。一番右端に「研修に望むこと」ということでいくつか出して下さっているところがあるが、4ページ目からの河合委員が返して下さった別紙の文書が研修についてのご希望ということで、河合委員の方から含めてご提案・お話ををしていただくと嬉しく思う。

（河合委員）

・他の方にお聞きしたいこともあるのだが、アンケートの案を送って下さった時に私が勝手に想定していたものと形がちょっと違つて書きにくかったので別に付けさせてもらった。9月2日の作業部会で話したことを、私個人の去年度の反省として部会等で話したことを見をおいてしまうと忘れてしまっているというのがあったので、作業部会が終わってからあまり間をおかずに、1日2日の間に何を話したか自分でまとめていたので、それをここに書かせてもらったのだが、これは私が受け取ったことなので、もしかするとここで皆さんと認識が違つていてもかもしれないが、26年度に企画する研修の目的はこういうことだったということで一つ書いてあり、主だった研修の進め方としても予算の話もしていたのでこんな風に話をしていたということを書いてある。そういう研修を進めていくまでの取っ掛かりとして本当だったらサービス提供事業所の個別支援計画作成の担当をしておられる職員さんも実際その場に参加して、そこでKJ法を用いて現状を出し合つて課題整理できれば一番良いのだが、それはなかなか時間もとるのも難しいだろうということで、アンケートをやってみるのはということでアンケートが出てきたので、そのアンケートをどういう項目でとれば良いかということを自分自身で自分なりに考えてみたら、まずはアンケート調査の実施についてはどこを対象とするか事業所を考えないといけないと思った。計画相談の相談支援専門員さんは別にこのサービス管理責任者が配置されていない、例えばサービス提供責任者というのだったか居宅介護のところとの情報交換等はされるのだが、あまり一度にそこまで広げてしまうと数が多くすぎてやつてききれないと思ったのと、今回はサービス管理責任者というのが最初から出てきていたので対象とするのはサービス管理責任者の配置が必要となっている障がい福祉サービス等事業の関係だろうなと思ったので、それはどういう事業を行っているところなのかというのを括弧の中に入れさせてもらっている。次が、そこだけではなくて指定特定相談支援事業所は全部アンケートを取れば良いかなと思い、そういう風に書いている。その相談支援事業所や事業所の誰にアンケートを書いてもらうかと言えばサービス提供事業所の場合だと個別支援計画をサービス管理責任者が全部書いているとは限らないので個別支援計画を作成している職員さんにもアンケートに答えてもらった方が良いのではと思い両方をあげている。相談支援事業は勿論、相談支援専門員さんである。それでは、乙訓にどれだけのサービス提供事業所があるのかというのを府の「障害者福祉の手引き」の最新版から拾いあげてみたものを載せている。もし、これを全部するとこれだけでも結構な数になり大変なので全部にしないでピックアップする情報がいるのかなと思ったりしていた。そして、どんな質問項目でアンケートを取るのかというのをサービス管理責任者や個別支援計画を作成してくれている職員さんに向けてだとこういうことかなというのと、次のページは相談支援専門員さんへのアンケートだこういうことかと思いついたものをあげさせてもらっている。この思いついたものをあげたということは私が関心を持っていることかもしれないで、もっと他にも考えられるかもしれない。とりあえず、ここまで考えたものを出させてもらった。

(伊藤副部会長)

- ・というようなご意見を頭の中に入れてもらいたいながら、資料が皆さんのお手元にあるのでわかりにくい文言等、アンケートの答えの補足や研修に望むことも含めて皆さんのお声を出していただければと思う。

(榎並副部会長)

- ・ここにも書かせていただいているのだが、実際の業務の中で1日の支援でサービス提供事業者と利用者の関係性があって個別支援計画が先に作られている場合だが、なかなか情報共有というところで一歩遅れてしまったりするので、そこはこちらから細目に連絡を取るということが必要だとは思うのだが、事業所の方にも計画を連動させる為の連携の取り方というところで一緒に考えてもらえる機会を持てればとは思う。今、私が常日頃から思っていることはそういうことである。

(伊藤副部会長)

- ・ありがとうございます。より連動したものにする方法等含めてということである。奥田委員は如何だろうか。

(奥田委員)

- ・私を入れて4人の相談員がいるのだが聞いたところ、今、榎並委員が言われたことと同じようなことになるのだがサービス等利用計画と個別支援計画の関係性というところが相談支援専門員は研修を受けてというところで当然わかっているところなのだが、連絡を取らせてもらうサービス提供事業所の職員さんがどこまでわかつてもらえているのかというところがそれぞれ差があるように思う。この圏域は計画相談が進んでいるので大体わかつてもらえているのだが、たまに市外の事業所等に連絡を取らせてもらった時に「それは何ですか」という話になったりするので、そういうところでは時間がかかったり、このケースではないのだが「個別支援計画は何故渡さないといけないのか」という話になったり等、見せていただきたいというお願いなのだが、そういうことがあったりするというのは聞いたりしている。

(伊藤副部会長)

- ・京都市内は全然やれていないようである。

(奥田委員)

- ・ご存知ない方がたくさんおられるように思う。

(伊藤副部会長)

- ・ありがとうございます。こらぼねっとさん、お願いします。

(こらぼねっと・小松委員)

- ・3月から作り出して4月までにサービス等利用計画と個別支援計画を作るのだが、どちらが先にできるかはまちまちになる。一緒に作ってしまうのでなかなか連携しない。やっとモニタリングで方向修正することになる。こうした方が良いのではないか、こういう風にやっている等、指針がほしいように思う。

(河合委員)

- ・それは相談支援事業所としての指針という意味だろうか。

(こらぼねっと・小松委員)

- ・利用者さんとサービス提供事業所、相談支援事業所が4月から使うにあたって、この3者がこの段階で話し合いをして、ここでスタートであるというものがほしい。

(伊藤副部会長)

- ・ひまわり園さん、お願いします。

(村山委員)

- ・書かせてもらっているのだが、非常に過渡期でもあるので、利用者によっては物凄くたくさん事業所を使っておられるところは確認だけでも非常に時間がかかり、それぞれの理解の違いみたいなところに物凄く時間がかかる。現実にいうと見せてもらえないところもあるので、どこまで共通認識みたいなものがとれるのかどうか、正直ちょっと見えにくいように思っている。モニタリングの時期も計画相談は正確に決まるのだが、うちの事業所であれば少々無理もきくのだが、他の事業所だとそれに合わせて変えていくというのは正直やりにくさもあり、どういう形でうまくリンクで

きる形が良いのかなと思うが、当然、利用者にとって良い方法というかそういう形ができれば良いなとは思うが、明確な回答がとりあえずは策定と色々な聞き取りによってされているというのが正直なところである。色々な計画等のスケジュールに関しては具体的な計画を出させていただいているところで参考というか計画の報告等が少しあれば今後の色々なケースの参考にできるのかなとは思う。

(河合委員)

・今、最後に言われた計画等の報告というのはどういう意味だろうか。他の事業所が作った計画書を見せてほしいという意味だろうか。

(村山委員)

・当然、お名前等は無理だがどういう計画を立てられたか、事例というような報告があれば良いかと思う。煮詰まるところもあるので、そういう形があればとは思う。

(伊藤副部会長)

・ポニーの学校は私が回答しているのだが、書きだすといっぱいあって、これぐらいしか書いていない。連携という点でいうと、時間の調整だけで手いっぱいである。自分のところの事業所を使っておられない方についてはそれだけで手いっぱいであり、自分のところの事業所を使って下さっている方でさえも、例えばこの時期、児童の場合はモニタリングという時期が決まってしまうので、それだけでも3人～4人の相談員が日程を組んでいるが、それでも子供のことなお休みがあったり等、それをする日程調整からまず大変である。複数の事業所を使っておられるところ等はそれぞれに行かないといけないので言い出したら大変なところしかない。その辺で、研修に望むこととしては基本的なところで前にも会議で言っていたとは思うのだが、計画相談とそれぞれのサービス提供事業所の個別支援計画との関連というか連携のベースを皆で確認できて、それがキャンバスが書いてくれた圏域ルールというか申し合わせみたいな形になって、皆でお互い「何で、あなたのところに渡さないといけないのか」、「個人情報だから出せない」等ということにならないような何か圏域のルールがあって、その方がスムーズに生活ができるようになっていくような方向みたいなものが見えてこれば良いなとは思う。文字にしていなくて申し訳なかった。そんなことを思いながら、日々追われている。

向日市社協は如何だろうか。

(吉川委員)

・私も十分に書けていなくて申し訳ない。うちは3人で作っている。皆さんにおっしゃっていたことがほとんどで、この圏域のサービス提供事業所でも個別支援計画書を下さいと言ってもいただけないところもある。それは担当職員のせいだけではなく、そこの事業所の考え方であるとか、こちらは提供させていただいているので必ず計画等次に訪問するまでに持つて行かせていただいたりしているのだが、なかなか難しいところがある。もちろん、事業所でモニタリングさせていただいたら、担当者会議をさせていただいたらするのだが、うちが作った計画書のサービスの内容は具体的に個別支援計画書で出しているが、その擦り合わせができていないと凄く感じている。本人さんもこういう作業がやりたいという思いがあったり、家族さんも「以前こういうことをやっていたのだが、こういう風に変わった」等、なかなかしつくりいかない部分の方が多いように感じている。介護保険だと新規の方というのは一からスタートで、一から事業所や色々なサービス等、困っていること、ニーズ等を出していただいて相談して作り上げていくのだが、やはりサービスを継続しているところに入っていく部分があって、まだまだわからないところがいっぱいあるので、事業所とこうあれば良いなというものがあれば、マニュアルまでは難しいかとは思うがそういうところは研修というかお話を聞く場面でディスカッションや意見交換ができれば、顔が見える関係であれば信頼関係ができてしまうとお互いが相談しやすかったり、電話しやすかったりするのだが、息を飲み込んで電話しないといけない関係であれば、なかなか本人さんの状況が電話だけではわかりにくい、伝えにくい部分があたりするので、そういうところとはどうすれば良いのかというはある。顔が見える関係で、利用者さんがより良く生活できるようにというのは皆同じところにきてているのだが、皆それぞれにあるので、できる限り計画をいただいたら事業所には電話したり連絡をとったり等色々な方法を使っては持って行かせていただいている。だが、本当にたくさんの事業所を使っておられたり、実際に圏域以外の京都市内の事業所に協力していただいている方も多いので担当者会議をしてもなかなか集まっていたけないのだが、担当者会議を

することが基本なのでさせていただくのだが連絡してもなかなか繋がらない、FAXを送っても返信がない等も凄く多い。あと、私が思うのは医療のことで、この圏域の先生方は乙訓医師会さんとの連携もあるので照会依頼等お電話で聞かせていただくこともできるのだが、中には他圏域の大きな総合病院に行っておられる方もおられて、もちろん地域連携室も通させていただいて先生には聞いていただくのだが、なかなか情報や今の進退状況の連絡がなくて、どうしたものかと思っている。全く就労だけで行っておられて、病院に係りつけ医を持っておられない方もやはり多くて、自閉の方だと病院に行くことや注射が苦手な方が多いので、その辺りでも地域の先生にご相談しながら、例えば予防注射の時等にできる方も多くなってきたのだが、病気になった時やけがをした時の対応というのがお母様方も困っておられることが多いので多岐に渡って悩みはつきないように思う。

(伊藤副部会長)

- ・いっぱい悩んでおられるかと思う。長谷川委員、お願いします。

(長谷川委員)

・サービス等利用計画と個別支援計画の関係というところで11番のところに書かせていただいている。サービス等利用計画を山というか点として、それぞれの各事業所の個別支援計画というところをイメージする中で、このサービス等利用計画を立てる書き手というか、そういった者としてどこまで本当に各事業所の要望等を落とし込めているのかといふのは非常に不安で悩みでもあると心の中で思っている。また、利用者の方の要望等というところで出た時にサービス担当者会議を開催するにあたって相談員としてどこまで会議の調整、または進行役等を要望実現のために担当者会議でどうまとめていくかというのは難しさを感じる上で、まだまだ相談員のスキルアップが重要だと改めて痛感しているところである。

(伊藤副部会長)

- ・若竹苑さん、お願いします。

(石野委員)

・「利用計画を送付していますか」という問い合わせに対して「している」というところがほとんどだが、うちはしていない。特に情報提供を拒んでいるということではないのだが、使うか・使わないか、はっきりしないが契約だけはしておくというような事業所のところに送付したり、いっぱい契約をしているが、使えるところがいっぱいあるわけではなく、いざという時に使いたいという、そういうところに全部送付するのはどうかなというのもあり、コピーを送付して終わりではなくて、もう少し話がしたいというのもあるし、聞きたいことが聞けないというのもある。そうかと言って、全員が揃い、資料も準備してとなると凄く大変だということは皆さんおっしゃっているので、その辺、事業所との関係作りも大変だと実感している。実際そういうところで研修ということで具体的なケースを上げてもらった方がしやすいかと思うので書かせていただいた。

(伊藤副部会長)

- ・石田委員、お願いします。

(石田委員)

・利用計画は必ず送付している。個別支援計画に関してははいただいたり、口頭だけで確認したりということで、必ずしもいただくという形をとっているわけではない。事業所によってのところがある。計画相談と個別支援計画との連動というのもどこまで捉えているかは事業所によってだいぶ違うところがある。事業所によって対応の仕方や進め方といふのはだいぶ差が出てしまうというのが現状である。特に圏域外のところは最初の説明から時間がかかるてしまい非常に難しいという印象がある。どうしても、お待ちいただいた上で計画を作成していっているところもあるので、作成に追われている状況でかなり細かいところまでこちら側もできていないというのが現状であるので、その辺は事業所としても検討していかないといけないところがある。

(伊藤副部会長)

・田中先生の立場で計画相談の計画と生徒さんや児童さんだと個別支援計画もあるので、その辺との連携でいうと如何だろうか。

(田中委員)

・まずは相談支援事業所がご苦労されながら色々な事業所と繋がっていただいて、うちの児童・生徒の放課後の色々な支援に繋がっているのだと、こちらはお願ひするばかりなのだが、ご苦労されていることにまず感謝したい。外部の方との繋がりを我々は関係者会議と呼ぶのだが、その中でも事業所と上手くいかなくなると、本当は保護者と事業所の問題というかそこで課題整理してもらうことなのだが、事業所には事業所の狙いがあり、そこで保護者も言えなくなるところがあり、そのような場合も「関係者会議をお願いします」ということで集まつていただき、「どうしてください」ということは言えないのだが、「この子の実態はこうである」、「学校の生活はこのようにしている」等、丁寧に伝える中で事業所が考えていただける範疇もあるのかなということで、本当に今までお世話になっている若竹苑やひまわり園等は卒業生もたくさんお世話になっているので、どういう子どもの実態かというのは凄く理解をしていただけているかと思うのだが、新しく放課後等デイのサービスが始まつてから事業所もできたりして、その中で向日が丘の児童・生徒を深く理解していただくところにまだ至っていないのかというところは学校がそういう風に伝える機会というのを持つ必要があるのかと思う。事業所の方向性がどうのこうのではなくて、子どもの実態を知つてもらった中で支援の仕方や手立てを工夫していただけるのかなと思いながらやっているところである。学校で作つてある個別の教育支援計画というものがあり、もう一つ指導計画というのがあり、それは実態やあゆみ(成績)、教育支援計画と二本立てで作つてあるのが外に出していって、子どもの実態を知つてもらうという意見と教育支援計画の方はサービスに即繋ぐみたいな書き方もあれば、子どもの全体像を捉えて書いている職員もいるというのはまだ全体で「こう書きましょう」というのがきちんとできていないところもあって、なかなかそういうものが一人歩きするという怖さも担当者としてはあり、指導計画・教育支援計画というものを検討会議というのを作つて管理職にも入つてもらいながらそういうものを作つて検討していくところである。「見せて下さい。」「ください。」というのを良く聞くので参考にはしていただけるのかと思うのだが、まだお渡しできるところには至っていないところである。行政との話し合いの時にもそういうものがすぐに見られるような環境にあれば凄く助かるという話は聞いているのだが、そこを今学校としては検討している段階である。

(伊藤副部会長)

・相談支援事業所と親御さんと学校というところを聞きながら市役所の方は如何だろうか。アンケートは答えて下さっているのだが研修の希望等も含めてご意見をいただければと思う。

(岩谷委員)

・サービス等利用計画の制度が始まる前に個別支援計画というのが元々あり、後でサービス等利用計画というのが始まつていて、サービス等利用計画が始まったことで個別支援計画の中身で180度方向転換することはないだろうが一定今までの援助方針から若干変わっていくことがあるのではないかと思った。そのことでサービス提供事業所がご苦労されていることやそういう声を聞ければと感じた。研修で望むことは語弊があるかもしれないが愚痴こぼしの場にはならないようにしてほしいと思っている。折角の研修の場なので、どこの事業所も実のある研修にしてほしいと思うので「大変だよね」という愚痴こぼしの場で終わつてほしくないなというのは思っている。

(伊藤副部会長)

・大山崎町、お願ひします。

(上田委員)

・色々、事業所のお話を聞かせてもらつていて色々なご苦労があることを改めて認識させてもらったところである。サービス等利用計画の策定にあたつて、ほとんどの事業所が個別支援計画をサービス提供事業所から提供していただき、それを参考にしながらサービス等利用計画を作つておられるということだと勉強させていただいたのだが、本来、サービス等利用計画があつて、それに基づいて個別支援計画を立てるという位置付けの両者の関係だと思うので、そこがそもそも来春以降については全員がサービス利用計画が付いた上でのスタートになるので、こういう流れも無くなつていくのかとは思うのだが、その部分の考え方の整理というか、現状、個別支援計画を基にサービス等利用計画を作つているという本来とテレコの様なことになつてることがどうなのかなと思う。来春以降はそれができなくなるので、それを作り方のベースにされているということであれば、そこを変えていくということが発生していくのではないかと今

日お話を聞いていて思った。

(伊藤副部会長)

・小松委員がおっしゃっていたみたいに個別支援計画と相談の方のサービスの計画が同じ時期になり、ぐちゃぐちゃになってしまうので、その辺りの整理みたいなことも含めて今おっしゃって下さっていたのだと思う。そんな話の中で、保健所さんはあるべき姿と現実を良くご存知かと思うので、保健所さんの立場でこの様な研修になれば良いなと思うところはあるだろうか。

(野々口委員)

・ある意味、その辺りのところが一番わかつていないのが僕のようにも思った。今色々とお話を伺いしていて、相談支援事業所と各事業所それぞれで計画を作られるわけだが、たぶん相談支援事業所によってサービス等利用計画を作るというのが、今まで説明の方も国の方もしていると思うが、やはりその方の課題や目標があって、それについてどうやって各サービス支援事業所あるいは地域の方やボランティアの方が力を合わせてやっていくかという風なコンセプトがあると思う。もう既に個別支援計画をそれぞれ作っておられるのだが、このサービス等利用計画を作ることによって、その方のトータルの計画を見直すきっかけになると思う。今、個別支援計画を見てもらっているか、サービス等利用計画を渡してもらっているかという確認も確かに必要だと思うが、先程、若竹苑さんもおっしゃっていたように紙のやり取りだけで終わるのではなくて協議したり、話し合ったりすることがベースになって、その方にとって必要なことを作っていくという見直しに、もしするのであれば必要な計画ができるのかと思う。個別に事業所の話を聞いていると、例えば就労系の通所の事業所でその方の生活が色々見えてきて、その方が金銭管理ができない、家の中がめちゃくちゃである等そんな話を聞いた時に、土日にボランティアでそこへ行き何かをしてあげるという話をされたことがあり、それは複数の事業所さんから聞いたりしたのだが、そうなるとその方にとって必要なサービスというものが別に必要だと、そこにサービス等利用計画で目標を持って、この人にとって必要な支援は何かというのをもう一度見直して、関係者が集まって、この方についてどういう風に支援をしていくかとなれば、その通所系の事業所にとっては自分のところの支援以外のこと今までやっていたのだが、もっと適切な形でその方の情報を共有してやっていけたり、その方自身にとっても一つの事業所にだけ繋がっていたのが相談支援専門員さんが入ることによって色々な繋がりができるといふそういう見直しをしようというのもそもそもの話だと思う。その辺のことをどうやって、やっていくかということなのだが、先程から個別支援計画とサービス等利用計画が同時にスタートでなかなかトータルでできないというのもあり、その中で27年3月までに作りなさいというのはちょっと無理な話もあって、相談支援専門員の数も足りないというのもある。当初はなかなか一氣にはできないと思うのだが、モニタリングもあって、その中で繰り返し見直しがされていくのかと思うが、その辺りのやり方をどうやっていくのかというのも一つ研修で考えてみても良いのかとちょっと今思った。

(伊藤副部会長)

・ここにあったものを計画相談が始まったことをきっかけに、その方のもう一回改めて生活そのものを見直していくきっかけが上手く協議も含めてそういう場になれば良いし、そういうことを学べるような研修であっても良いのかなとも思う。河合委員や長澤委員は複数でサービスを利用されておられたなら両方ともいだいておられるのだろうか。

(河合委員)

・サービス管理責任者という方がおられて個別支援計画が立てられているところは貰っていても、居宅のようなところはたまに承認の印鑑を押さないといけない時にはもらってというのはある。うちの場合だと訪問看護も2ヶ所入っているのでそこの計画も時々もらう。

(伊藤副部会長)

・それを見ていて連動されているなあ等思うことはあるだろうか。

(河合委員)

・先程、説明しなかったのだが一番下に書いているのだが、うちの場合だと色んな障がい福祉サービスを先に利用していく、サービス等利用計画というのは後からとなっているので連動していないなというところはやはりある。ただ、こ

これからモニタリングということをきっちり繰り返していけば、多少の時期的なずれはあっても、そこで揃えていくようにするきっかけというか、その時期は必ず訪れるのでそこできっちりとやっていけば多少ずれてもいいけるのではという気はしている。ただ、二つ目に書いているのが私の凄い疑問で個別支援計画というのはうちの子どもが利用しているところはずっと長年取り組んで、色々と苦労されて必ずしも上手くいっているとは言えないが、毎月モニタリングをされて、個別懇談等も実施されて半年ごとに評価されて、毎年必ず目標も変わっていくので作り直しているのだが、サービス等利用計画の方はケースワーカーの方にもお聞きしたのだがサービスの支給量が変わらない限り計画を作り直さなくとも良いらしい。でも、あの計画書というのは一年後の目標で設定されて作っているはずなのにサービスの支給量が変わらないからと言っても同じ支給量でも使い方を変えるというか、こういうことで使っていこうと意識を変える等、そういうことがうちの子どもの場合凄く起こってきているのだが、目標はそのままでというのがよくわからない。でもケースワーカーさんはそのままで作り直さなくて良いとおっしゃったのでびっくりしている段階である。

(奥田委員)

・サービス等利用計画は本来その方の生活をということで課題や希望を設定して一年間を目指にこういうことでやっていきましょうということである。今言われているのは結構、生活に密着した部分で、支給量の範囲内ではあるけれども変わっていくことがあったり、本人さんの身体の状況が変わったりすることってありますよねということではないのだろうか。

(河合委員)

・それがそうではないようで、それぐらいだとわかるのだが、何しろ結構大きく意識的に目標というか今まで気付かなかつたことがサービス等利用計画が入ったことによって、こういう風にトータルに見ていけば良いんだということが、一回目はまだ気付いていなかったことが途中のモニタリング等を通してしているうちにこうすればもっと将来に良い見通しがつけられてくるのではないかというちょっとした光みたいなものが見えているのに計画を立て直さなくて良いと言われたら「えーっ」という感じになる。

(奥田委員)

・たぶん、そこは行政的にお金が出る計画の部分ではということではないだろうか。

(ポニーの学校・小松委員)

・今のは一年の計画ということではなくてずっとということだろうか。

(河合委員)

・でも、最初に立てた計画というのは目標は一年の目標で立てるのだと思う。一年経った後に目標がきっちり到達できていれば、違う目標になるかもしれないが、でもサービス量が変わるとは限らないと思う。そういう場合もそうだし、目標に到達できなかった場合、それには色々な問題があって、ここをこうすれば到達できるのではないか等ちょっと見ててくるものがあるかと思う。そうしたら、目標の書き方も問題が明確になるような目標設定にする等、そういうことが必要になってくるかと思うが計画自体を立て直さなくて良いとなれば、それぞれの個別支援計画はどの目標に向かっていくのだろうか。

(こらぼねっと・小松委員)

・一年目と同じ内容で二年目の計画を出して、それで請求するのではないだろうか。

(河合委員)

・いや、出さない。計画書は出さない。モニタリングの報告書しか出さない。

(吉川委員)

・更新の時には必ずモニタリングをしてから一年経つ前に、前月にモニタリングをさせていただいたり、担当者会議をして、それで利用者さんのニーズ、家族さんのニーズを聞きながら、モニタリングしながら来年度に向けてこういう目標でいきましょうというのを作る。

(奥田委員)

・一年に一回は必ずサービス等利用計画を出している。

(河合委員)

- ・ケースワーカーさんが「作らないです。」とおっしゃっていた。だから計画書は一年目に作った最初の計画書しかない。
(伊藤副部会長)
- ・目標や関わりの課題等ちょっとずつ見えてきたものがあれば、それが前に作った計画書と違っていればそれは変わることになる。モニタリングをした結果わかつてきただことで、そのモニタリングの結果その課題や支援する中身等が変わるという計画書は一緒に付けて出せば良い。

(河合委員)

- ・でも、うちのケースの場合であればケースワーカーさんも「要らない。」と言うし、ケースワーカーさんが要らないと言っていたら作れないので「作りません。」ということになっている。うちケースの場合だと両方が違っているということになるのだろうか。

(奥田委員)

- ・一年経ったところで再申請になるかと思うが更新の時に仮に支給量が・・。

(河合委員)

- ・更新と府の計画とがそもそも連動していない。更新は更新。計画は計画。モニタリングはモニタリング。長岡京市の方がいらっしゃらないので確認のしようがないのだが、更新は更新で勝手にくる。計画策定は別に直近のモニタリングで支給量さえ変わらなければそれで済んでしまう。同じように更新されてしまう。こういうことがまだまだ始まつばかりなので、こんな色んな問題をそれぞれのところで抱えておられるかと思うのでそこを明らかにして、こんなことになっていること等を共有してバラバラになっているのを正しい道に寄せていけたら良いのではと思う。

(伊藤副部会長)

- ・長澤委員はどうだろうか。

(長澤委員)

- ・正直、初めに比べると丁寧さが欠けてきたように実感している。モニタリングの時も現状に不満がなければ「このままで行きましょうか。」という形で言われるとこちらの思いとずれてきて、現状を考えるとそうなのだがサービスありきみたいな形で計画を立てられるとそれ以上良くなっていくのかなという不安が凄くある。

(伊藤副部会長)

- ・聞く側も忙しいというのは別でそれは皆がやっていることなので、ご本人さんの気持ちをしっかりと聞くということは基本なので、その辺はまた研修があつて思い直せば良いなと思う。基本的には岩谷委員がおっしゃっていた「しんどさの出し合い」にもなつたらつまらないだけなので先に向かっていけるような研修であるというのは前にも確認した通りである。それと、やはり、サービス提供事業者と相談支援事業者が計画についての共通の理解をまずしないといけない。そういう中身はきちんと押さえておかないといけない。大山崎町がアンケートに書いて下さっているのが凄くこうだと思ったのだが、まずは共通理解。それぞれの支援計画についてのどういう風な繋がりがあって、どうあるべきなのかということをまず理解する。その上でサービス提供事業所と相談支援事業所の方が何をしないといけないのか、何を自分達がそれぞれ担うのか等をしっかりと乙訓の中で、せめて乙訓の管内でやっている事業所は相談にしろ、サービス提供にしろ、共通の認識を持つということを大きな一つの目標にしていくべきだと思う。学校側としても計画の中に学校生活が書いてあって、学校での支援目標、例えばまだペンも持てない子に字が書けるようになるという話にはならない訳で、その辺は学校ともきちんと連携をとつて計画の段階でそれを反映しないといけない訳で、その時にはたぶんお互いの立場というのか、これが子どもの個別の支援教育目標が計画相談の中にも反映されるということも含めて、事業所というのは福祉のサービス提供じやなくて、本来、医療関係と連絡が取れないということもあったのだが、そことも連携を取つてやらないといけないだろうし、野々口委員がおっしゃっていた隣のボランティアを入れるというそのボランティアさんにもその計画の目標や支援がわかつてもらうということも必要になってくるかと思う。そういう風なものをまず、せめて乙訓圏域が関係するものはその関係性や、どうあるべきかを共通に認識するということを研修の中に入れるということは特に問題はないだろうか。それと、皆さんのお声の中で具体的なケース、具体的なものというのも

あったのだが、その辺はどうだろうか。

(吉川委員)

・何年か前に相談支援事業所連絡会で事例を通しながらスキルアップしていこうというのを武田先生に来ていただいて行った。やはり、講義だけだと話が見えてこないというか色んなことが出てこないので、ある架空の事例でも何でも良いのだがそれを題材にして、皆で相談支援事業所の立場、サービス提供事業所の立場、家族の立場等そういうことができればと思う。ある程度、具体的に話す内容が見えないと研修というのは聞いているだけで終わってしまうので、この圏域でということもあるので、それが相談の立場とサービス提供の立場等色々あると思うが実践報告ではないがそういうものも要るのかと思う。講義的なことだけなら研修というのはお互い立場立場で違うのでわかりにくい部分でより良い研修になりにくくないように思う。誰かの話を聞くだけよりも、前半はそういう話もあってディスカッションやグループワークをしてやつた方がイメージとしてより良く具体的に課題等が見えるように思う。

(こらぼねっと・小松委員)

・質問なのだがサービス管理責任者や相談支援専門員が集まって「こういう時にどうしたら良いのか」、「こういうことになっているのだが」等事例を出していって、そうしたらサービス提供事業所と相談の関係は「こういう風にしましょう」とまとめるのか、その講師の先生の考え方「こうあるべきだ」というのがあって、それに対して「こういうケースの時はどうしたら良いのか」とまとめしていくのか、どちらのイメージになるのだろうか。

(河合委員)

・基本的なことの説明を仮に講義形式で聞くとしても、その前に一応アンケートを実施すると言っていたので、そのアンケートで参加する人一人一人の関心等を掘り起こしておいて、その課題を整理したものにもしっかりと触れてもらうような講義をしてもらうというのが一つしないといけないと思う。それと、おっしゃっていたような事例検討。一つの事例検討を通してどう連携を取っているのかという辺りの事例をそれぞれが意見を出してグループでワークシートを使ってディスカッションしたものを発表していくことと、ルール作りみたいなことがあったが、ある一定の「こういうことはこの地域でこういう風にやっていきましょう。」みたいな合意できるようなものにまとめていければ良いように思った。

(岩谷委員)

・事例でサービス等利用計画が始まったことで上手く回っていっているケースというのがあると思う。計画が始まって、お互い連携がスムーズにいくことによってこんな風に良くなりましたというような事例等も紹介していただけたら、しんどさの中に光も見えてくるだろうし、サービス提供事業所等は手間だけが増えたみたいに思ってらっしゃるところもあるかもしれないが、こういう風に変わっていくんだというのが具体的に目で見えるような成功事例、成功までは行っていないかもしれないが何か光が見える事例をこちらに紹介していただけたら、皆が元気になるように思っている。

(伊藤副部会長)

・愚痴は言わない。成功事例を伝える。

(河合委員)

・まだ成功まではいっていないと思うが、どの事例も上手くいっていても一人一人から見たら違うので、その違う見方を知るということが事例検討では重要なことなので、ただ紹介だけに終わらないということが必要だと思う。

(伊藤副部会長)

・ただ色んな意見があるのは、その意見は個人の感性に基づいていくのか、それとも今始まったばかりの計画相談と個別支援計画の運動という基本的なところがまだたぶん皆がその辺りがわかり切れていないから、このような話になってくるのだと思う。基本はアンケートでどんなことで困っているかというところを河合委員の案も参考にしながら中身を作ることにして、そこで困り感がわかるということに当ててもらうということと、基本は運動することを皆が共通に認識することと、そのための約束事というかマニュアルと言うと大変なので最低乙訓圏域のそれぞれの事業所間で連携運動をとる時には「絶対にとりましょう。」とか「この時間はお互いにあけておきましょう。」等そんなことも含めて、そういうルールとまではいかない了解事項というかその辺りのところに繋がっていくような研修になれば今回は良いの

かなと思う。目的はその辺りで、そのためにサービス提供事業所も相談支援事業所も親御さんも本人さんも関係する機関には来てもらうというような話なのかなと思う。

(田中委員)

・そのルール作りというところで、先程、こらばねっとの小松委員がおっしゃった当事者の意思表明する人と直接関わる事業所さんと相談支援事業所との三者で話す機会が4月からスタートしている。長岡京市の方ではケアマネ会議というのをして参加できる事業所と参加できない事業所とがあつたりするのだが、そこは行政が主催してもらってこちらには「参加して下さい。」という依頼がきて参加する。向日市の場合は学校が出席しなくて、第三者が参加されてのケアマネ会議が行われている。大山崎町ではそのケアマネ会議がないということを今のところ把握をしている。その辺りでやはり子どもの実態を伝えるということでは学校としてなかなか時間的には大変なこともあるのだが、実態をお伝えする機会としては良い機会だと思っている。できれば市町で差がない方が小さな圏域で仲良くそれぞれの市町がやっていただいている中でそういうところも了解事項というか、それぞれご都合もあるかとは思うが、我々の子どもは一緒に市町によって分けられない方が良いように思っている。

(伊藤副部会長)

・相談支援部会としてそれを行政の方に上げるのか、上げないのかは置いておき、そういうご意見は色々なところで出てくるだろうとは思う。

(ボニーの学校・小松委員)

・先程から事例についてというのがよく出ているのだが、ここに来られている方が乙訓の圏域の方で、その事例にあがつた方がどういう形で関わっているかがわからないような、近くに住んでいる人が集まるところで、特定される、わかるところで皆で意見を言い合うというのが私はちょっとどうかと思う。もし、そういう事例の研修が必要だとしたら、そこは本当の人でということではなくて、した方が良いと思う。

(吉川委員)

・模擬事例みたいないので、もちろん個別の事例というのはこういうところでするものではないので、それは担当者会議と個別会議があるので、模擬事例は色々なところでやっていることなので、例えば今は違うが武田先生に聞いていただく等できるかと思うので、こここの圏域の方というのではなくて模擬事例として一つ何かがなければ声が出ないと思う。皆それぞれ立場が違って、色々な意味で意見を言っていただいた方が良いので、そこはまた相談していただいた方が良いように思う。

(こらばねっと・小松委員)

・当時のサービス管理者等の話とかは聞かないということだろうか。

(吉川委員)

・そうではなくて、アンケートの結果でどういうことを課題にしていくのかという段階なので、今の段階では具体的にこういう研修を進めるという場ではない。

(伊藤副部会長)

・基本的には連動が大事であるということをまず研修の一つの目的として、その連動・連携、皆が元気に、本人さんが素敵な生活ができる、その研修をやるためにアンケートで困っていること、わからないこと等を具体的に、河合委員も丁寧に案を出して下さっているが、このようなことも参考にしながら、その目的に応じたアンケート内容を作つてそれぞれに出すということしか今日の段階では難しいように思う。

(高畠委員)

・全然わからなかつたので相談支援に関する25年度の厚生労働省の業務実態調査のデータを見たのだが、皆さんおっしゃつしたこととほとんど同じである。事務処理の時間、モニタリングの時間がかかるということもこれを見て初めて、今日の話を聞いて二重に大変だなと思った。当初、河合委員がおっしゃっていた厚生労働省が5月に行われた国の研修の後にまた昨日から始まっているサービス管理責任者の研修の中での計画相談の推進についてというのをダウンロードさせてもらったのだが、その中で何故こういうことがしたいのかがやっとわかつてきて、この中で推進についての説明

の中でどうしたら良いのかという市町村に対して例えば計画支援を促進するための対応というのを書いておられるのだが、こういうのをマニュアル化して見やすくすれば、計画相談を促進するために府はどういう風に対応しているのか、市町村はどういう風に対応しているのかという流れみたいなものや、自立支援協議会はどういう形で把握したら良いのかというのを書いているものとしては、「市町村の自立支援協議会においてどのようなサービスを受けている人が計画策定の対象となるのか、どの相談支援事業者が何件ぐらいの計画を作成するのか等を市区町村、関係機関で意見交換していくことは効果的」とあるが、まさに今やっていることだと思う。そういう風にやはり実態を把握して、人数を把握していないといけないという問題もあるとは思うが、こういう風にしたら良いという流れが図式だけだと問題かもしれないが、その流れを見れば一年間のスパンの中で実際に3月・4月は大変な問題を抱えていると、当事者からすれば見えてきているのをもう少し促進してほしいという希望がある等、ここまででは一年間でできる流れであるみたいな流れを整理できるようなベースみたいなものをオリジナルで、政府が出したように市町村の流れでこうやるべきだというものを乙訓バージョンみたいな形で確認できる形にしておけば意外と他の事業所さんだがサービス管理者の方と支援相談員の方が悩みを確認できないという悩みがあるから確認はこうするのだというものがきちんとあれば、サービス管理者の方も個別支援を立てる方も情報交換しやすいという流れを作つておけるように思う。先程おっしゃったように紙面だけの交換では難しいとか情報公開には問題があるという問題もあるが、やはり双方の連絡を密にしたいというのが願望だと思う。連絡を密にしたいという願望を叶えるためには市町村なりの縛りというかこういう風にしてやりましょうというある一定のものを自立支援協議会が出しても良いように思う。皆がおっしゃっていることが難しそうで戸惑っているのだが、サービス利用計画と個別支援計画の情報交換をすることが一番大事であるということがメインであり、そこが一番しんどいから何もかもがなかなか上手くいかないというところなので情報交換はしましょうという流れを作るというが必要だと思っている。そのためにはこの5月の講演の先生等にこういうのは何故政府が考えてこういう風にしようとしたかという大きな流れを聞いて、そうしたら市町村ではこういう形で関わり合いを作るべきだという形での話し合いができるかもしれないと思い、その先生をお呼びして全体像を捉えて、お互いの関わり合いを密にするような形をどうするかの検討の場にするみたいな形をとるのも一案かなと思った。

(伊藤副部会長)

・時間が過ぎてしまい申し訳ない。とにかく二つの計画は連動しないといけないという共通認識を持つ。そして皆でわかれり合えるようなルールというか約束事を狙いとして研修するというところまでは確認できたと思う。そのためのアンケートについては今日は時間がないので次回までに作業部会を開くのはどうだろうか。

(事務局)

・次の部会の日程と作業部会の日程を今決めていただけるなら決めていただいた方が良いと思う。

(伊藤副部会長)

・部会長がいないので日程はメールで日程調整させていただきたいと思う。

(河合委員)

・次の部会では何をするのだろうか。

(伊藤副部会長)

・次の部会ではアンケートをきちんと決めて、どういう中身で、どこに送つてということをしていく。

(河合委員)

・それは作業部会ですのではなくてということだろうか。

(伊藤副部会長)

・作業部会でそのままするということはできないので、作業部会で大よそのことを練つておき、部会で確認してそれに向けてやっていくというような流れでどうだろうか。

(河合委員)

・今日は「3. 今後の活動」についての時間がなくなってしまったのだが、積み残しているのが「事例を共有する」というのがあったかと思う。困難ケースだけでなく事例を共有していくということの進め方を決めないといけないと思

う。あと、去年の部会の最後の方だったかと思うが一次相談から二次相談に回していくインテークシートの集計をしたかと思う。その中で出てきた問題点というのがあり、それをまた今後検討していかないといけないというようなことで終わっていたのだが、どちらにしても今年度もインテークシートの最終集計を取るということはするのだろうか。もしするのであれば、また準備をしないといけない。最後の部会でも良いのかもしれないが。

(伊藤副部会長)

・では、その二つとアンケートのことを含めて次回の部会でもうちょっと丁寧に論議するということで良いだろうか。その上で部会の日程を決めて皆さんに連絡させていただきたいと思う。

(事務局)

・事務局の方で日程調整のメールを送らせていただくが、およその目途だけでも決めていただければと思う。

(伊藤副部会長)

・一ヶ月後ぐらいに作業部会をして、その一ヶ月後ぐらいに部会で良いだろうか。

(河合委員)

・今年のうちに作業部会と部会とがあると思っておけば良いだろうか。

(伊藤副部会長)

・そのつもりでよろしくお願ひします。最後に事務局の方からお願ひします。

3. 今後の活動

4. その他

(事務局)

・今日の議題とは関係ないのだが、実は介護職員初任者研修講座をひまわり園の村山委員の方が中心となって自立支援協議会の取り組みをしていただいている。主催は「あらぐさ福祉会」である。実は定員20名に対して、明後日の4日から始まるのだが、今現在9名しかご希望がない。大変少ないので、急で申し訳ないが身近な方にちょっとでも声掛けをしていただきて、お一人でもお二人でも受講生が増えるようにということでお願いをしたい。もし、声掛けができるような方がおられたら、よろしくお願ひします。

(伊藤副部会長)

・進行が悪くて申し訳なかった。本年度第3回の相談支援部会をこれで終了させていただきたいと思う。ありがとうございました。

5. 次回部会の開催日程について